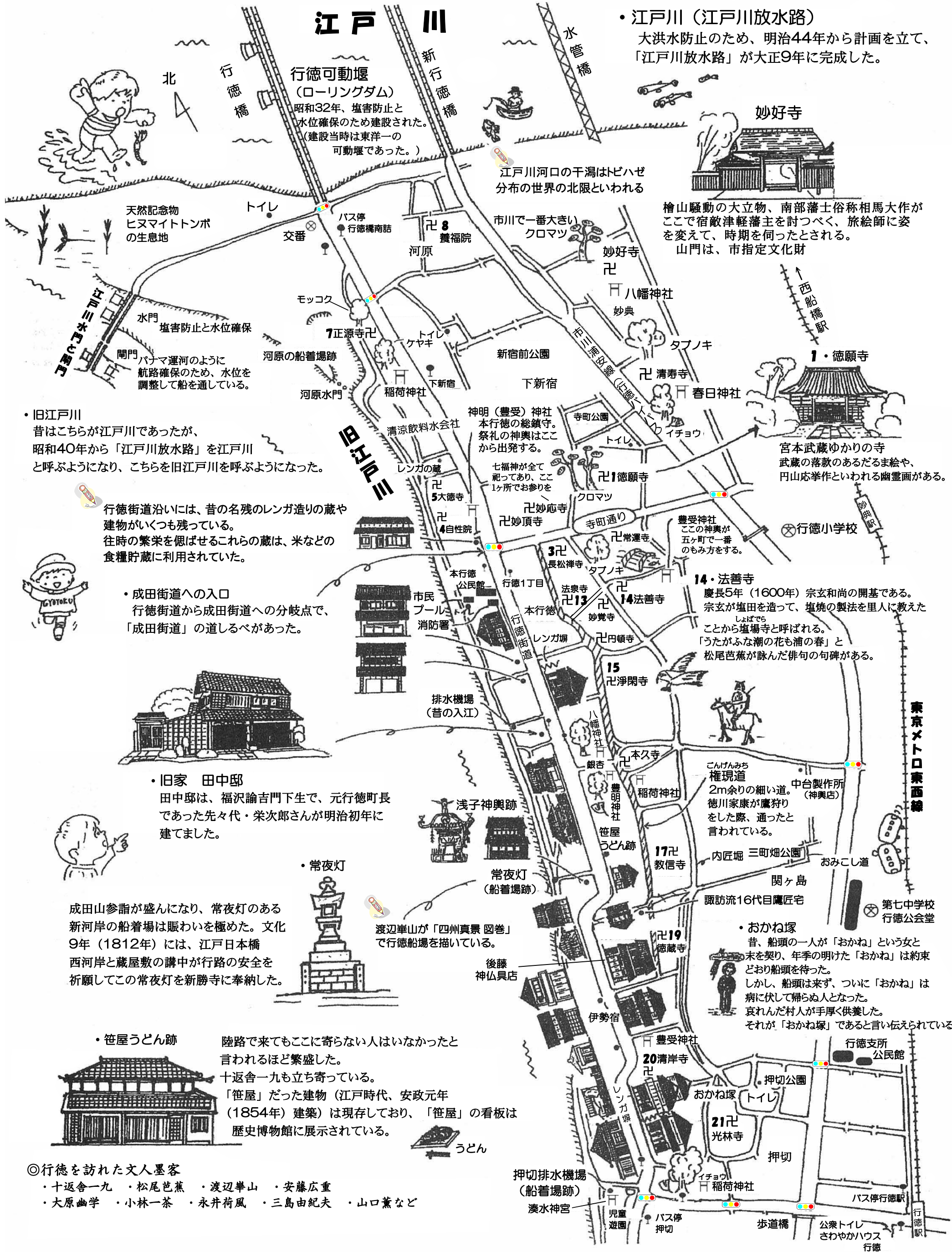


江戸川

江戸川（江戸川放水路）

大洪水防止のため、明治44年から計画を立て、「江戸川放水路」が大正9年に完成した。



行徳可動堰（ローリングダム）
昭和32年、塩害防止と水位確保のため建設された。
（建設当時は東洋一の可動堰であった。）

江戸川河口の干潟はビハゼ分布の世界の北限といわれる



妙好寺

檜山騒動の大立物、南部藩士俗相馬大作家がここで宿敵津軽藩主を討つべく、旅絵師に姿を変えて、時期を伺ったとされる。山門は、市指定文化財

天然記念物
ヒヌマイトトンボの生息地

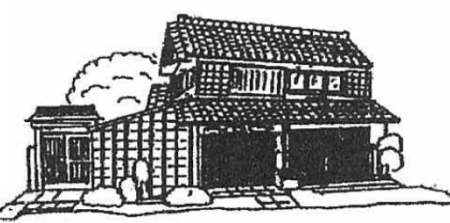
水門
塩害防止と水位確保
開門
パナマ運河のように航路確保のため、水位を調整して船を通して

・旧江戸川
昔はこちらが江戸川であったが、昭和40年から「江戸川放水路」を江戸川と呼ぶようになり、こちらを旧江戸川と呼ぶようになった。

行徳街道沿いには、昔の名残のレンガ造りの蔵や建物がいくつも残っている。往時の繁栄を偲ばせるこれらの蔵は、米などの食糧貯蔵に利用されていた。



・成田街道への入口
行徳街道から成田街道への分岐点で、「成田街道」の道しるべがあった。



・旧家 田中邸
田中邸は、福沢諭吉門下生で、元行徳町長であった先々代・栄次郎さんが明治初年に建てました。



・常夜灯

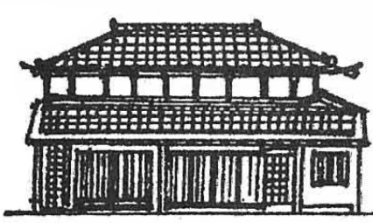
成田山参詣が盛んになり、常夜灯のある新河岸の船着場は賑わいを極めた。文化9年（1812年）には、江戸日本橋西河岸と蔵屋敷の講中が行路の安全を祈願してこの常夜灯を新勝寺に奉納した。



渡辺華山が「四州真景 図巻」で行徳船場を描いている。

・笹屋うどん跡

陸路で来てもここに寄らない人はいなかったと言われるほど繁盛した。十返舎一九も立ち寄っている。「笹屋」だった建物（江戸時代、安政元年（1854年）建築）は現存しており、「笹屋」の看板は歴史博物館に展示されている。



うどん

◎行徳を訪れた文人墨客

- ・十返舎一九 ・松尾芭蕉 ・渡辺華山 ・安藤広重
- ・大原幽学 ・小林一茶 ・永井荷風 ・三島由紀夫 ・山口薫など

・おかね塚
昔、船頭の一人が「おかね」という女と末を契り、年季の明けた「おかね」は約束どおり船頭を待った。しかし、船頭は来ず、ついに「おかね」は病に伏して帰らぬ人となった。哀れんだ村人が手厚く供養した。それが「おかね塚」と言い伝えられている。



押切排水機場（船着場跡）

バス停 行徳